

# 子どもたちが自分で考え自由に楽しむ遊び場づくり ～ 天竺のはらっぱであそぼう！ ～

## 大阪府営服部緑地（豊中市）

竹田和真（一般財団法人大阪府公園協会）

「天竺のはらっぱであそぼう！」は、外遊びの機会が少なくなった都市部の子どもたちに向けて、自分の責任で自由に外遊びが楽しめる冒険遊び場（プレーパーク）づくりであり、外遊びが子どもの成長に不可欠と考えるお母さんやお父さんからのメッセージです。ありのままの自然が残る樹林地が、月に1回開放され、公園ではまだまだ許されないことが多い木登りや穴掘り、木に吊るしたブランコやハンモック、秘密基地づくりなどに夢中になる子どもたちの笑顔と笑い声でいっぱいになります。運営するのは「天竺のはらっぱであそぼう会」のお母さんとお父さん、そして地域の見守りボランティアの方々。専任のプレーリーダーを置かず、手探りながらも、集う大人が子どもたちと一緒に楽しみながら、みんなでゆるやかに見守る。そんな遊び場です。



「天竺のはらっぱであそぼう！」の舞台「天竺のはらっぱ」は、服部緑地の南西部、淀川水系「天竺川」沿いにある約0.5haの樹林地。この場所は公園区域でありながら、ごみの不法投棄が問題化したため、1975年頃から周囲をフェンスで囲まれ利用できない閉鎖空間となっていました。服部緑地と天竺川の周辺を地域の魅力にしていこうとめざして、2004年、地元の小中学校や市民団体、豊中市、大阪府らがメンバーとなって「服部緑地・天竺川周辺『地域の魅力・顔づくりプロジェクト』推進連絡協議会」が発足。長年閉鎖された「天竺のはらっぱ」を世代間交流のできる地域活動の場として利活用しようと活動が進められてきました。そして、2008年から「天竺のはらっぱ」を開放する日が設けられ、その日にあわせて「天竺のはらっぱであそぼう！」が開催されるようになりました。こうして、服部緑地の閉鎖区域を、府営公園で唯一の冒険遊び場（プレーパーク）として利活用する活動がスタートしました。「天竺のはらっぱであそぼう！」への協力・応援をお願いします。

子どもたちを取り巻く人間関係や地縁的なつながりが希薄化し、地域社会における「教育力」が低下していると指摘されて久しい※1。また、自然体験の不足と子どもの身体的・精神的な健康問題との関係が注目されるようになり※2、米国では肥満や糖尿病、ADHD（注意欠陥多動性障害）等の子どもたちの治療に、外遊びを処方する取組が始まっています※3。自然の中で外遊びできる環境を整える活動は、子どもたちを取り巻くこうした課題にもアプローチできる可能性があります。公園は誰でも利用できる身近な施設だからこそ、このような活動ができる場所として使いこなしていくことの社会的意義は極めて大きい。

※1 文部科学省、平成18年、平成17年度文部科学白書 ※2 Richard Louv, 2005, Last Child in the Woods: Saving Our Children from Nature-Deficit Disorder ※3 Unity Health Care では小児科医 Robert Zarr 氏が中心となって、生活習慣病の子どもたちへの治療のひとつとして、公園へ行って遊んだりスポーツをすることを処方する Park Prescription（公園処方箋）が実践されている。

写真提供・協力：天竺のはらっぱであそぼう会 <http://tenjikuharappa2.blog48.fc2.com/>